

光 寿

2月号
2013
第83号



発行 頼成光寿会

日本再生と氏子の隆昌を祈願して

延喜式内 頼成林神社の歳旦祭

平成二十五年は、牡丹雪の降る中であけました。午前0時前に消防団の方々が消防車で到着、新年のお祓いを受けられました。やがてかがり火の焚かれ凛とした空気の張りつめた境内に、三々五々初詣の人たちが訪れはじめました。



午前五時から八田悠希さん（茂興さん左）、坂東千晶さん（國香さん左）、中井麻衣さんら三人の巫女さんたちも奉仕して歳旦祭が斎行され、合わせて白寿、喜寿、古希、還暦、厄年の方々のお祓いが行われました。式後宮司さんから、歳旦祭の齋行に当たって宮委員さん方の並々ならぬ尽力があったことへの謝辞と、いろいろな意味で今年が日本再生の年であって欲しいこと、あわせて氏子各位のいっそうの弥栄を祈念することのご挨拶がありました。



お正月の伝統的な民俗行事左義長が、今年も一月十四日公文名で行われました。左義長の起りについては以前にも一度触れたことがあり

季節のうた

寒明けと言えど老いにはまだ明けず

林 香月子

次のお当日お祓いを受けられた方々のご芳名は



八田貴弘さん 林 恭功さん
永田一成さん 林 貴規さん

白寿 林あや子さん
喜寿 堀尾孝雄さん
古稀 林逸子さん
武部 敏子さん
林 邦子さん
還暦 齊藤一夫さん
齊藤 繁範さん
林 浩實さん
林 繁樹さん
八田 俊樹さん
林 廣治さん
厄年(四十二歳) 坂東 久さん
坂東 栄さん
齊藤 麻紀さん
八田 純康さん
林 志博さん
厄年(三十三歳) 林 昭友さん
厄年(二十五歳) 島 大賀さん
島 一之さん

伝統の炎あかあかと

公文名で今年も恒例の左義長

お正月の伝統的な民俗行事左義長が、今年も一月十四日公文名で行われました。左義長の起りについては以前にも一度触れたことがあり



ますが、平安時代の貴族の正月遊びに「毬杖(ぎつちよう)」と言う杖で毬をホッケーのように打ち合う遊びがあり、小正月(一月十五日)に宮中の清涼殿の東庭で青竹を束ねて立て、その上に扇子や短冊などを添え、陰陽師が謡いはやしながらかれを焼いたという行事があり「毬杖(ぎつちよう)」「二本を

結ぶことから「三毬杖(さぎちよう)」と呼ばれていました。これが民間に伝わり、庶民文化の広まった室町時代から現在の形になったとされています。しかし「左義長」という字があてられたわけはよく分かりません。その年飾った門松や注連飾り、書き初めで書いた物を持ち寄って焼き、その火で焼いた餅を食べればその年の病を除くと言われて何百年も続けられてきた貴重な民俗行事です。前の年から藁などの材料を貯めておいたり、冷たい雪の中で孟宗竹を切り出して組み上げたり、火の始末にも心を配ったりするなど、なかなか手間暇のかかる行事ですが、これからは守り続けていきたいと思います。



平成二十五年新会員の加入について

頼成在住で昭和二十四年四月二日から二十五年四月一日の間に生まれられた方(小学校の昭和三十五年卒業生) 頼成地区高齢者の大切な互助親睦団体です。ぜひ加入されるようお勧めしましょう。

地区の子どもを守り育てよう

光寿会会員二十一人含む五十人が隊員登録

登録隊員数
 東原 2人
 明覚 1人
 川原 1人
 西川 21人
 北正 5人
 正川 9人
 善公文 7人
 平成24年11月現在



見守り場所と担当常会

当会会員二十一人を含む五十人の方々が隊員登録をされ、朝七時二十分から約三十分、それぞれの常会の担当交差点七カ所で子ども達の登下校を見守っております。

会員の皆様には見守り隊員登録の有無に拘わらず子ども達が事故・事件に巻き込まれないよう、日頃から声かけや見守りをしていただくようお願い致します。

国道バイパス開通以来、頼成地区内の交通状況が著しく変化し、子ども達の登下校時の安全が脅かされる状況になってまいりました。このように、みな頼成自治会では、平成十七年に一般若子隊にも見守り隊の方々を新たに登録をお願いたし、体制を新設し、校時の安全指導を強化する活動を展開してまいります。委員会の呼びかけに応じて

らんじよ 浮世亭 だよ

今回は、浮世亭恒例の新春お楽しみ会を催しました。

後にも先にもない穏やかな好天に恵まれ35人の方達が参加されました。全員で子供のころを思い出して唱歌「年の初め」を斉唱したあと、ジャンケン・ゲームや那須与一扇的、目出鯛の日送りなどのゲームを楽しみました。

最後に阿弥陀籤福引があり、大吉、中吉、小吉に豪華？景品が贈られました。終始笑いに包まれた楽しいひとときでした。午後の写経の集いは、全員で仏説阿弥陀経を読経したあと、仏説観無量壽経の第九の観想について述べられた部分を書写しました。

次回は2月20日(水)です。
 光寿会との共催で**第3回光寿会**
会員作品展を開きます。



高齡介護情報 砺波市の高齡者等軽度生活援助事業

65歳以上のひとり暮らし高齡者及び高齡者のみの世帯に対して、家の周りの草むしりや落ち葉の清掃、寝具類等大物の日干し及びクリーニング、家屋内の整理整頓・軽微な修繕、除雪・雪囲いなど軽易な日常生活上の援助を行っています。

利用回数は月2回まで(1回当たり3時間を限度)担当のケアマネージャー又は庄東センターにある砺波市地域包括支援センターにご相談してください。

講話 木曾義仲と砺波山の戦い

木曾義仲 氏
 大河ドラマ化プロジエクトを推し進める
 小矢部市植生護国八幡宮宮司 植生雅章 氏
 二月二十一日 午後一時半 般若改善センター



政治・経済が混迷し、地方が疲弊する現在、圧倒的な勢力を誇る相手に果敢に挑戦し、新しい時代を切り拓く礎となり、朝日將軍と称せられた木曾義仲。今、その義仲と妻巴の生涯を、大河ドラマ化しようとする運動が、富山県・長野県・石川県の関係自治体による広域連携推進会議の開催などをおして、官民一体となって進められていく。義仲が必勝祈願をしたと云われる小矢部市植生護国八幡宮宮司の植生雅章氏を招いてお話を聞きます。

主催 般若高齡者学級

予告案内 光寿会定期総会

三月八日(金曜日)
 午前十時開会
 予算・決算・事業審議、講話、懇親会。皆様誘い合わせご参加ください。

2月行事予定表

1日	光寿会定例役員会
20日	らんじよ浮世亭・光寿会共催作品展
21日	般若連・高齡者学級閉講式記念講演
22日	光寿会新旧合同役員会

いかるぎ

福島原発の事故以来、電力会社が様々な批判にさらされていますが、そんな中、抱える原発2基が停止して、今年上半期だけ給していないにも拘わらず、今年上半期だけで209億円もの純利益を上げた電力会社が、どうして発電も給電もしない電力会社があるのか聞いて驚きました。

調べてみますと、東京、関西、東北、中部、北陸の5電力との間に、電力供給契約があって、その契約基本料なるものが年額760億円。実際に電気を送らなくても「基本料」だけは貰える仕組みになっているのだそうです。この760億円は言うまでもなく各電力会社の電気料金に含まれて利用者が負担しているのです。稼働していない原発会社の儲けが我が家の電気料金から出ていると思うと割り切れない気がします。

